

令和2年度 第3回社会教育委員会議 会議録

日 時：令和3年3月23日（火）13：57～15：05

場 所：苫小牧市役所第二庁舎 2階 北会議室

出席委員 山口委員（議長）、北岸委員（副議長）、石井委員、植木委員、小林委員、櫻井委員、佐藤委員、藤島委員、松橋委員、渡辺委員（10名）

事務局 教育委員会：瀬能教育部長、斎藤教育部次長
勇払公民館：梶川館長 科学センター：長谷川館長 美術博物館：武田館長
生涯学習課：林崎課長、藤原主幹、斉藤主査、仲世古主任主事

1 開 会 （進行）林崎生涯学習課長

2 挨拶 苫小牧市社会教育委員会議 山口議長

3 議 事 （進行）山口議長

（1）第五次生涯学習推進基本計画に基づく取組状況報告

※資料に基づき、事務局（斉藤主査）より説明

<質疑の主な内容>

委 員 2ページ「つみきの会の支援」と同じく2ページ「ボランティアスクール事業」ですが、青少年課さんから委託を受け、小・中・高校生を対象に行っている事業ですが、子ども達も忙しいということもあり、参加者がなかなか集まらない。ただ、どのように人を集めるかということも、ここ数年注力している状況です。先ほどの説明で、高校ボランティア部の活性化ということもありますが、私、ボランティアスクールも担当していますが、20年前から「つみきの会」があり、当時はボランティアスクールにも参加し社協職員とも交流がありました。現在は、ボランティア部の活性化ということももちろんあると思いますが、根本的に子ども達があまり福祉やボランティアに興味がないということと、社会情勢もあり、なかなか参加が難しい、親御さんも就職のことを考えてか、なかなか参加しなさいということになっていないと思います。そこで「つみきの会」ですが、具体的にどのように見直していくのか、方向性などありましたら教えていただきたいと思います。

事務局 担当課によると、先ほどの説明と同じようなことになりませんが、活動の受け皿としての支援体制を維持したいと聞いておりますが、なかなか人数増に繋がっていないということで、本計画も令和4年度までということですので、具体的にどのようにということは伺っておりませんが、この機会に抜本的に見直した

いと聞いております。

委員 委託事業も毎年相談させてもらいながら行っておりますが、若い方の参加については、社協としても検討していきませんが、興味を持ってもらえるような事業を市と共に考えていければと思います。

委員 今の関連で、高校生とかも関心がない訳ではないと思いますが、時代に合った支援体制が重要で、働きかけするにもルートを確保しないと次に繋がらない、非常に難しいと感じます。今の時代、学校ではボランティア活動も評価されると聞いておりますので、学校教育・社会教育様々な視点から見直すところは見直して、ボランティア体制がわかるような取組みを要望します。

委員 ボランティアの考え方は人それぞれあると思いますが、一つは人に認められるということもあると思います。その認められるということに関し、ほとんど他の人には見えていません。そもそもどういったボランティアがあって、どのように活動しているということが見えていない。苫小牧市においても、ボランティア団体は様々あると思います。例えば、図書館ボランティアというものもありますが、図書館の場合は情報提供しているが、どういった内容で、誰が行っているかという情報があまりないし、その他の団体の情報についても私はよくわからないが、行政側でも情報を押さえて、ボランティアを増やしていこうというまちづくりの視点も重要だと思いますので、ぜひ次期計画で検討していければと思います。

会長 積極的に広報するという視点も重要ですね。

委員 一番は認めてあげることが重要だと思います。例えばバッチをあげるとか。それがやる気にも繋がると思います。私はこういうボランティアを行っていますとアピールすることも大事かと思います。

(2) 令和3年度生涯学習課・各施設の事業概要について

※資料に基づき、事務局（生涯学習課（予算説明含む）→中央図書館→市史編集事務局→勇払公民館→科学センター→美術博物館（埋蔵文化財調査センター、勇武津資料館含む）の順に各担当から説明

<質疑の主な内容>

委員 7ページ 中央図書館「レファレンス機能」という専門用語、どういった機能か、それが「家庭生活及び職業上の課題や地域課題解決のための支援機能の強化」課題解決支援にどう繋がるのでしょうか。

事務局 まずレファレンスという言葉ですが、皆様の調べもののお手伝いをする図書館の業務の一つとなっております。例えば「どこにどのような本があるのかとい

う質問への対応」「調査・研究のための資料をお探しするお手伝い」など、重要な役割の一つとして、レファレンスというものがございます。この調べもののお手伝いから、個人・団体が課題を抱えていた場合、こういった解決をしていこうかとなったときに、図書館の職員がこういった本がありますと提案などのお手伝いをさせていただきながら、課題解決に繋げていくということで載せさせていただいております。

委員 11ページ 科学センターの新規事業で「春休み工作教室」というものが盛り込まれておりますが、これは一般からの要望があって開催するのか。春休みは短いので、盛り込むのはこういった意図があってでしょうか。

事務局 要望があった訳ではなく、科学センター独自で行う事業となっております。

委員 14ページ 美術博物館「アイヌ文化関連展示の整備」ですが、ウポポイの関連もありますことから、もうちょっと具体的にご説明をお願いします。

事務局 当館の「アイヌの暮らし」という常設展示がございますが、博物館の開館年が1985年で、なかなか更新できずにいましたが、来年度一部交付金を活用して、アイヌの音源や画面などの設備をリニューアルし更新します。

委員 各事業、コロナによって入場制限をしたり、中止したりということがありましたよね。その計画した事業が出来なかったということもありまして、結果的には市民サービスが低下したということになる訳ですが、今後、第四波がきたら、どのような対応となるのでしょうか。

事務局 全般的な部分ですが、コロナ対策として、国から基本的対処方針というのが示されまして、大きく分けると、施設への制限と活動への制限というのが、国や北海道から通知があります。施設の利用などの指示がありますので、それに基づいて現場で対処しますが、お話のあった第四波などがあった場合は、その感染状況によって、市でも対策本部が開かれ協議されますので、それに基づいて対応していくということになるかと思えます。

委員 提案ですが、この中には現場に行かなくてもできるものもありますよね。ユーチューブとかZoomを使用してサービスを提供することもできるのかなと思います。それぞれのセクションで苦勞されて、せつかくこういう計画を立てておられても、中止となると勿体ないし、そういうことを無くしてほしい、市民サービスを低下させないでほしいと思います。

次長 ご提案いただいたとおり、できるだけ工夫して市民サービスを低下させないような考え方は大事だと思いますし、具体的にどれができる・できないというこ

とは言えませんが、例えば子ども達に実際してもらうものについては、なかなか難しいこともあります。できるだけ工夫して、人数制限やオンライン開催するなど、できる限りのことを行うなど考えていきたいと思えます。

委員 他市の取組みもぜひ参考にしてほしいと思えます。

委員 事業概要に記載してある「推進方針」というのは、第五次計画にも関連しているのでしょうか。

事務局 関連している部分もあります。

委員 気になった点が、7ページの中央図書館に書いてある「市民に喜ばれ」という部分、この言葉は適切なのかと思えました。

事務局 この言葉ですが、多くの市民に足を運んでもらって、滞在型図書館を目指したいということから、こういった表現をしております。

委員 この「喜ばれ」というのは人の感覚だから、もうちょっと広い意味で表現した方が良いのでは。

事務局 検討したいと思えます。

委員 先ほど、藤島委員からも意見がありましたが、いわゆる遠隔でサービスを提供するということですが、GIGAスクール構想、学校に端末が配置されたので、科学センターであれば、小学生に提供、全校ではなく試験というのを経た方が良いのではと思えます。苫小牧高専、1年前に緊急事態宣言が出て、4月早々に休校の措置となりましたけど、翌週から遠隔授業を開始しました。これは全国で1、2位を争う速さですが、それが出来た理由は、そもそも遠隔授業というのを集合で活用するのは初めてですが、個別では色々なところで活用していたという事例があって、それを展開したに過ぎない、いかに経験があるか無いかということ、それがコロナの経験でした。苫小牧市としても、環境が整ってきたのであれば、試験的に施行するのが良いのかなと思えます。

事務局 どういった形でできるか、工夫しながら進めていきたいと思えます。

委員 ITの活用については、できることから工夫し活用してもらいたいと思えます。それと科学センターでC評価した1件、中身を見ると、私はコロナの影響を受けていると感じがして、事業規模縮小の「E評価」ではないかと思えますがいかがですか。

事務局 C評価とさせていただきますが、ご指摘のとおり中身を見るとE評価の部分も多いかなと思います。

(3) その他

なし

閉会 15時05分終了